

# 令和5年度 学校園評価シート

(様式2)

	学校園名	加古川幼稚園
<b>1 教育目標</b> 「やさしく たくましく」—豊かな体験を通して、学びに向かう力を育む—		

<b>2 基本方針</b>
幼児一人一人の特性や発達を捉え、安心安全に園生活を送るための適切な援助や環境構成を工夫する。また、「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を目指して学びに向かう力や協同性を養い、小学校や地域との関わりや体験活動を通して健康で主体的に行動できる幼児の育成を目指す。

<b>3 指導目標</b>
(1)健康で 明るい子 (2)自分で考え 行動する子 (3)優しく 思いやりのある子 (4)豊かに 表現できる子 (5)根気強く 最後まで頑張りぬく子

評価基準 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	成果	課題と改善の方策	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
基本的な生活習慣を確立する	◎健康で明るい子 ・意欲をもって園に通い、自分の力を発揮しながら生活を進めていく。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。 ◎自分で考え、行動できる子 ・友達と集団生活を送る中で経験を重ね、自分ができることや守ること命や自分や人の気持ちなど大切なことに気付き、生活に取り入れる。	B	○1学期に意図的に好きな遊びの時間を多くとり、毎日クラスタイムの話し合いを継続したことで、その後も自分のやりたいことを具体的をもって登園する姿が見られた。 ○約束、決まりを覚えるのではなく、自分と友達との関係やクラスと園全体での活動の違いなど、相手やその状況に合った自分や自分の行動など気付いたり、考えたりする姿が見られている。また友達と考えを交わし合い、一緒に解決策を見出そうとする姿がある。	△基本的な生活習慣が身に付きにくい幼児が数名おり、自分のための生活習慣の確立に必要感を感じにくかったり、興味や刺激に反応して後まわしになったりする姿がある。改善のため、登園、降園時の身支度を円滑にしたり、整理整頓をしたりすることが自分と周りの人が気持ちよく生活できるように必要なことであることを実感できるように、繰り返し誘い掛け、一緒に行うなど意識付けをしていく。 △失敗したらどうしよう、という思いから、自分から行動することを避ける姿があった。幼児の気持ちを受け止めながら成功した時の気持ちや、成功することだけが正しいのではないということ話をしていく。	・失敗から、そこに意識を向け、改善していこうと、チャレンジする気持ちを養ってほしい。 ・運動会で園庭に目印をする際、釘で印を打ち込むことは危険なので改善を。	B
身体を動かし体力を向上させる	◎根気よく最後まで頑張りぬく子 ・面白さを感じたり、憧れたりしながら活動に興味をもち、自分の目標に向かって諦めずに繰り返し取り組む。また実現するための方法を試したり、相談したりしながら見出していく過程を楽しむ。	A	○5歳児は、竹馬に乗れるようになったことや目標に向かって技に挑戦し技術を磨く面白さを感じたことが、根気強さにつながったと思う。その後は難しいことに挑戦することに面白さを感じ、失敗することやうまくいかないことを当たり前だと捉えて目標に向かって工夫したり、友達と相談したいして遊んでいる。また園のリーダーとして活躍したことが責任感や頼られる喜び、有能感につながり自信となったようである。	△幼児の竹馬の取組みの姿勢、技のユニークさには教師の予想を大きく上回り、驚かされた。また自分たちで創り上げた遊びだからこそ没頭したのだろうと思う。来年度も「根気よく最後まで頑張りぬく子」の目指す幼児像に向かってねらいをもちながら個々の幼児の実態や興味関心に合わせた遊びとなるように進めていきたい。 △体幹の弱い幼児が増えていると感じる。体の使い方が不器用で、ケガをしやすいため、身体を使った集団遊びやサーキット遊びを今後も、多く取り入れていきたい。	・竹馬やバカポコは体幹を鍛えたり、体力を養ったりすることに有効であり、継続して続けてほしい。	A
様々な人とのかかわり、豊かな体験をする。	◎優しく、思いやりのある子 ・自分の嬉しさや葛藤など様々な気持ちを味わったり、友達との関わりの中で相手の気持ちを知ったりする。また友達と一緒に活動する中で互いのよさや好み、得意分野などを知りながら友達の色々な面に気付き親しみを深める。 ・物語を読んだり、生き物を飼育したりする活動を通して、命の大切さを ・異年齢の友達や地域の方と関わり、親しみや感謝の気持ちをもつ。 ◎豊かに表現できる子 ・身の回りのものの美しさに心を動かしたり、物語に感動したり、ひとやものごとに憧れたりしたことを、いろいろな方法で表現しようとする。	B	○1学期、発達段階に個人差が大きく見られる幼児であり、相手の気持ちに気付きにくい姿もあったが、1年間友達と関わって遊ぶ中で色々な面を知り、頑張りやよさに気付いたことで、自分や相手の気持ち大切にものとして扱い、向き合おうとする姿が見られるようになった。 ○異年齢での関わりでは特に3歳児の手助けをしたり、ふれあい児の行事にアイデアを出したりしたことが思いやりの気持ちをもつことにつながった。 ○幼児のその時々感動体験を製作や絵画、身振り表現などに取り入れた。また自然の美しさを感じ取れるように、機会を逃さず観察した。	△幼児の遊びの姿や会話から家庭での遊びについて経験の差が大きいに感じている。ままごとなどの関わり合う遊びよりも一人での動画視聴が多いように思われる。園生活と同時に家庭での教育についてより啓発が必要である。そのためにはドキュメンテーションを活用したり、家庭での過ごし方、関わり方を提案したりすることが必要である。同時に保護者も家庭での遊びなど悩みや不安を抱えていることも予想されるので、担任も一緒に考えながら共に育てていく意識をもつ必要がある。 △異年齢の関わる時間はもっと増やすことができるので教師間で共通認識を高めて時間を設ける。	・生活発表会で、保護者の前で、伸び伸びと表現できていたことが良かった。 ・発達段階は、それぞれで違うので、個々に対応した先生の関わりが良い。	A
教師の資質向上を目指す。	・幼児教育についての知識を研修や書籍などから探り、その方法を受け持つ幼児の姿に照らし合わせて工夫や試行錯誤をしながら模索する。 ・職員会を設け、育てたい幼児の姿や行事の方向性などを相談しながら、共通理解を深め保育を行う。 ・日頃から職員間で個々の幼児の育ち、保護者の様子などを伝え合い幼児理解を深める。	B	○参加できる研修会は機会を逃さずに参加するように努めた。また県内外の幼稚園、小学校の研究会に参加する機会に恵まれ、知ったことをできる限りクラスに取り入れた。同様に文献などからも保育の方法を探り、保育に活かすように努めた。 ○園長、他クラスの担任、特別支援ルーム担任、用務員、就学前教育補助員の先生方とクラスの幼児全員の発達や興味、活動など共通理解に努めた。 ○教師同士がしっかりとコミュニケーションをとることで、幼児理解を深めることができた。	△幼児の保育について日頃の会話や職員会等で話し合いながら進めていったが、資質向上を目指して園内研修を充実していきたい。来年度は市内で研究会を行う園もあり、この機会を生かして、園内でも学びを深めていきたい。 △学びをまとめたり、啓発したりする力を高められるようにドキュメンテーション等の発信を増やしていく。 △個別の幼児の育ちやよさがより生きる保育となるように、園全体で方法を研修会や文献などで学びを進めていきたい。またその学びをエピソード記録などまとめていく。	・職員が、研修で学んだことを園で実践したり、新たなことにチャレンジしたりしている点が良い。 ・個々の職員の個性や良いところを活かしながら、今後も職員同士、連携を図ってほしい。	A
地域に開かれた園作りを行う。	・五校園長会、合同補導やユニット会議などの内容を共通理解し、地域、小、中学校との連携を深める。 ・地域のボランティアの方やゲストティーチャーと関わる中で、幼児が地域のとのつながりを感じたり、感謝の気持ちをもったりして親しみを深める。また地域の方には園や幼児への関心をもって頂き、共に園児を育む喜びを共有させていただく。 ・地域の方にゲストティーチャーとして保育に参加して頂き、専門的な知識や技能を保育に取り入れることで、幼児の豊かな体験につなげる。	A	○トライやるウィークや加古川西高校(家庭科授業、野球部とのふれあい)と交流を行い、子ども達も地域の中学生や高校生と楽しくふれあい、憧れの気持ちをもつことができた。また、小学校との合同避難訓練や支援ルームのなかよし会で小学校と交流でき、良い経験になった。 ○地域ボランティアさんには園庭整備でお世話になり、行事だけでなく日頃から幼児の育ちを共有させて頂き、幼児も親しみや感謝の気持ちをもち接している。 ○音楽指導の先生には年間通して指導を受け音楽を楽しむ気持ちや歌唱及び楽器の演奏指導を頂いた。教師も専門的な知識を身に付けるチャンスを受けた。	△地域への発信を行い、より幼児教育に関心を高めてもらえるように、ホームページや掲示を充実させていく。 △子ども園への移行を意識しながら、よりこの地域の方々に感謝をし、移行以降もつながりをもてるように大切にしていきたい。	・園と地域とが一緒に前進していく関係で有難い。 ・地域との子供に関する情報交換会を年1回くらい行っはどうか。	A